

地区の全住民が社員となる法人を設立して地区の運営を行うとともに、緑肥作物を活用し、多数の観光客が来訪するイベントの開催による都市農村交流や地域の活性化に貢献。

## 地区の特徴

- 宮川地区は、三方を山林に囲まれた谷部に位置する水稲作が中心の農業地域である。
- 地区の全住民が社員となる法人を設立し、地区全体の運営を担っており、「農地と農業をみんなで守る」を目標に「みんなが社員・みんなが主役」の地域運営をスローガンとして、人の輪による地域資源の保全や営農を支援する活動を強化し、継続して実施している。



宮川地区のひまわり畑（出典：株式会社若狭の恵HP）

## 農業農村整備事業との関係

【経営体育成基盤整備事業「宮川地区」（H9～H18）、中山間地域総合整備事業（H29）】

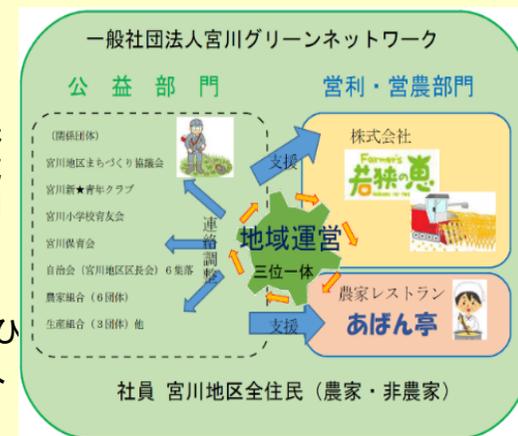
- 経営体の育成や農地の集積・集約化等により、良好な農村景観の保全に貢献。

## 取組の内容

- 農地中間管理機構創設を契機にメガファーム「若狭の恵」を設立し、農地の集積・集約化が進んだが、農家と非農家との関係維持や、地域資源の適正な保全などの課題が生じた。このため、公益部門と地域運営を担う新たな組織として、「一般社団法人宮川グリーンネットワーク」を設立した。
- 毎年8月に、ひまわり畑をメイン会場に「ひまわり祭」を開催し、都市住民等との交流を図っている。ひまわり畑の観光地化による交流人口として40,000人を超える観光客が来訪。
- ひまわり祭では、どろんこバレーやステージイベント、直売所開設、打上げ花火等のイベントを実施し、2日間の開催でH30年は約2,000人、R1年は約3,000人の観光客が訪れた。
- 若狭の恵では、ひまわり祭のほ場でひまわりを緑肥としてすき込み、特別栽培米「ひまわり米」を生産・ブランド化している。
- また、景観形成活動の一環として、水路や農道の法面、空き農地を利用したシバザクラやコスモスなど四季を感じる花の植栽活動を通して、地域コミュニティの維持・強化を図っている。



ひまわり畑への来訪者及びひまわり祭のパンフレット（出典：H29豊かなむらづくり表彰受賞資料）



宮川グリーンネットワークの体制（出典：H29豊かなむらづくり表彰受賞資料）

取組主体 ○一般社団法人宮川グリーンネットワーク